

2016.5.1 第1172号  
ISSN 0913-0217

発行人／長 瀬 清  
発行所／北海道医師会  
〒060-8627  
札幌市中央区大通西6丁目  
TEL(011)231-1432  
FAX(011)221-5070

# 北海道医報

2016  
**5**  
月号



北海道 美の遺産

佐藤 忠良 ボタン

北海道立近代美術館 所蔵

# CONTENTS

北海道医報  
平成28年5月1日 第1172号

指標／平成28年度の指導について……………橋本 洋一……………3  
医の倫理綱領……………7  
生涯教育シリーズXXI／胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療の最前線  
菜谷 将城、河上 洋、坂本 直哉……………8  
日本医師会綱領……………13  
報告／第146回臨時代議員会……………14  
報告／社会保険医療指導委員連絡協議会……………橋本 洋一……………17  
報告／平成27年度第3回都道府県災害医療コーディネーター研修……………吉田 秀明……………18  
報告／医学生・研修医と語る会……………藤井 美穂……………20  
報告／平成27年度救急医療研修会……………目黒 順一……………24  
日医報告／第136回日本医師会臨時代議員会……………28  
日医報告／平成27年度女性医師支援事業連絡協議会……………藤井 美穂……………34  
最新・医事紛争Q&A／モンスター家族への対応……………黒木 俊郎、加畑裕一朗……………36  
税務相談室／ゴルフ会員権の譲渡……………中村 孝一……………38  
北海道医歌人会詠草……………39  
会員のひろば……………田中 智、本田 泰人、谷村 一則、暮地本宙己、門 正則  
松本 修二、傳法 公麿、藤田 克裕、長谷川恒彦、水柿 功  
服部 憲尚、加藤 達也、辻崎 正幸、近藤 仁、澁谷 直道……………40  
ポラリスを仰ぐ北の大地から……………金川 有一、栗林 秀樹……………52  
大通公園を望む窓辺から……………水谷 匡宏、佐藤 貢……………53  
医学会・医学講演会等 開催情報……………54  
中央54 道南57 後志58 日胆58 空知59 道北60 北見62 道東62  
その他開催情報……………64  
日医認定産業医制度研修会開催一覧……………65  
日医認定健康スポーツ医制度再研修会開催一覧……………65  
訃報……………66  
道医の動き……………67  
会議室／第25・27回常任理事会……………68  
新規指定医療機関……………74  
売貸医院・医師招聘情報……………76  
道医師国保の頁……………81  
季節風／かかりつけ医はつらいよー「日医機能研修制度」始まるー……………山科 賢児……………86

## お知らせ

平成27年度日本医師会生涯教育制度自己申告のお願い<sup>16</sup>／医師資格証の申請方法および利用料変更のお知らせ<sup>23</sup>／日本医師会作成『心肺蘇生法CAB+Dカード』<sup>27</sup>／女性医師等支援事業を推進しています。<sup>38</sup>／厚生労働省「都道府県における看護職員のための研修事業事例集」<sup>50</sup>／北海道医師会 育児サポート事業のご案内<sup>51</sup>／平成28年度北海道医師会賞の推薦募集開始<sup>64</sup>／平成28年経済センサスー活動調査の実施（お願い）<sup>66</sup>／北海道医報へのご投稿等<sup>72</sup>／研修会等への託児サービス併設費用の助成<sup>73</sup>／北海道医師会ホームページの会員優待サービスにmiki HOUSE通販サイトがOPEN！<sup>73</sup>／北海道医師会サポートセンターのご利用<sup>75</sup>／ストレスチェック制度サポートダイヤルおよびQ&A<sup>79</sup>／電子メールによる会員への情報提供<sup>79</sup>／「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼<sup>80</sup>ー生命保険「団体扱い」のお奨めー<sup>80</sup>／グループ保険のご案内<sup>85</sup>

北海道医師会会員数 8,210名 (-79)      うち日本医師会会員数 5,822名 (-55)  
A      2,469名 (-7)      B2      4,530名 (-62)      C2      147名 (-2)  
B1      596名 (-5)      C1      108名 (-1)      C3      360名 (-2)

平成28年3月31日現在 ( ) 内前月比

## 作品紹介

さとう ちゅうりょう  
佐藤 忠良 ボタン

1912（明治45）年～2011（平成23）年  
宮城県生まれ。  
1969（昭和44）年の作品。ブロンズ(127.0cm)。

7歳のとき、母の両親が暮らす夕張市に移住し、少年時代を北海道で過ごす。札幌第二中学（現札幌西高等学校）で学んだ後、絵画を勉強するために上京するが、ロダン、マイヨールらフランスの近代彫刻に感銘を覚え、彫刻家を目指す。1934年、東京美術学校（現東京芸術大学）彫刻科に入学。

## 北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立近代美術館  
（札幌市中央区北1条西17丁目 011-644-6881）

在学中から国画会に出品し、卒業後は、本郷新らと新制作派協会彫刻部創立に参加。以後同会を舞台に活躍を続けた。

終戦から3年、シベリアでの抑留生活を余儀なくされたが、帰還後に制作を再開。1952年に発表された『群馬の人』で注目され、彫刻家として揺るぎない地位を築いた。

1981年には日本人彫刻家としてはじめて、パリのロダン美術館で回顧展を開催し、国際的にも高い評価を得ている。

娘（佐藤オリエ・女優）の何気ない日常を契機に、完成まで4年をかけた意欲作。ボタンを留めるしぐさは情感にあふれ、娘を見守る父の愛情も感じさせる。